

大幅賃上げ・底上げ、男女賃金格差、正そう！ 県労連第40回評議員会開く 2022年国民春闘方針を決定



発行責任者
勝見 忍
山形市薬師町2-6-15
TEL 023(615)2172
FAX 023(615)2173
URL: <http://www.yamagataroren.com/>
Email: yamagataroren@yahoo.co.jp

「大幅賃上げ・底上げ、誰もが希望もてる公正な社会を 労働組合でいっしょにつくろう」を掲げ、県労連は一月二九日、山形市で第四〇回評議員会を開き、山形県二〇二二年国民春闘方針を決定しました。新型コロナウイルスの感染拡大の中、オンラインも併用して県内を結んでの開催となりました。勝見忍議長はあいさつで、岸田政権の後ろに回ったコロナ対策を批判し、賃金が上がらない中で、多くの中小企業が何の恩恵もない「賃上げ減税」などの問題点を指摘し、分配なしの「新しい資本主義」を批判しました。さらに、



評議員会であいさつする勝見議長

四〇年間で一億円にもなる男女賃金格差の是正などジェンダー平等の推進を訴えました。佐藤完治事務局長が、①格差の是正・賃金大幅引き上げ・底上げ②雇用を守る、人間らしく働くルールの確立③医療・公衆衛生体制、公務公共体制の拡充④憲法が生かされる社会へ、参院選で政治転換を の四つの要求の柱と▼「要求と目的」の明確化▼格差の見

える化▼「組織拡大強化」と要求実現の結合▼参院選で要求実現可能な政治への転換、の四つのアプローチなど春闘方針を提案。賃上げ要求では、月額二五〇〇円以上、時間額一五〇円以上、全国一律最賃要求として時給一五〇〇円としま

した。討論では、「エッセンシャルワーカーに光をあてた方針。公務員もエッセンシャルワーカーです」という公務労働者や人員不足と不規則勤務で「役員が集まるのも大変だが情報を大事にして要求実現の運動をすす

最低賃金、全国一律へ県に要請 吉村知事「引き続き国に求める」 審議会の全面公開「労働局に伝える」

最低賃金の課題がますます重要となる中、県労連は一月二〇日、県に対し「雇用を守り、地域に元気を取り戻す」要請を行いました。勝見忍議長らが県庁を訪れ、吉村美栄子知事に要請書を手渡し懇談しました。勝見議長は、県がコロナ対策の強化などとともに、最賃の都道府県別のランク制度廃止と全国一律化を国に提言し続けていることに敬意を表明。コロナ禍の中で、非正規労働者や女性など経済的弱者が困難に直面しており、県民生活と経済を回復させる施策の推進を要請しました。

吉村知事は、都市部への人口流出による地域間格差拡大を生む最賃のランク制度廃止と全国一律制を引き続き国に求め、中小企業支援を強化すると答えました。今年度行っている県独自の「賃金向上推進事業支援金」制度は来年度も継続する意向も示されま

した。さらに、最賃審議会が専門部会を非公開としているため全面公開を国に求めてほしいとの要請について、「山形労働局に伝える」と前向きに回答しました。



吉村知事に要請する県労連のメンバー



県内をオンラインで結んで開かれた発足総会



参加者全員で団結ガンバロウを三唱

県二〇二二年国民春闘共闘委員会が発足 要求実現のため、あなたも労働組合へ 「ジェンダー平等って何？」学習会も開く

山形県二〇二二年国民春闘共闘委員会が二月十二日、オンラインも併用して発足総会を開き、春闘方針が承認されました。

勝見代表幹事は、「コロナ禍の下でも、大幅賃上げ・底上げを勝ち取ろう。そのため、要求闘争を仲間づくりにつなげ組織を強化しよう」と呼びかけました。

佐藤事務局長が、大幅賃上げ要求、全国一律最賃アクションプランの具体化、一日八時間の労働時間を七時間にす

る「労働時間短縮運動」、改憲発議を阻止する憲法改悪反対の署名運動など春闘方針を提案しました。

討論では、「山形市での自治体キャラバンで保育現場の仲間が声をあげた」（山形地域労連）、「県独自の学力テストをやめさせたい」（山教組）、「会計年度任用職員は期末手当に大きな格差がある」（公共一般）、「賃金低く人手不足、それが長時間労働につながる状況を変えたい」（共立社労組）、「九千円賃上げではダメ、職種によっては対象にならずみんなで分け合うと四三〇〇円に

対の署名運動など春闘方針を提案しました。

討論では、「山形市での自治体キャラバンで保育現場の仲間が声をあげた」（山形地域労連）、「県独自の学力テストをやめさせたい」（山教組）、「会計年度任用職員は期末手当に大きな格差がある」（公共一般）、「賃金低く人手不足、それが長時間労働につながる状況を変えたい」（共立社労組）、「九千円賃上げではダメ、職種によっては対象にならずみんなで分け合うと四三〇〇円に

「かならない」（福保労）など活発な発言が相次ぎました。

この後、全労連の寺園通

1年間の労働相談 パワハラ・解雇など91件 労働相談センターが総会ひらく

山形県労働相談センターは一月八日、第二〇回総会を開き、二〇二〇年一〇月から二十一年九月までの一年間に相談が九一件寄せられたことが報告されました。

パワハラ・解雇では、▼保育所経営者からたたかわれて警察が出勤し、その後に暴言を吐かれて退職（女性保育士）▼ブライダル会社の社長から雑用しか与えられず「母子家庭は普通じゃ

ない。幸せでない人がする仕事ではない」と退職を強要された（二〇代女性）▼ハラスメントをやってNPO法人を辞任した前理事の告発者と誤解されて嫌がらせの末に解雇通知書を提示された（女性労働者）など人格を侵害する相談、六〇代パート労働者からは「月三万円の年金だけでは生活ができず、夜、旅館でアルバイトをしていたが、コロナ禍で一、二月は四日間しか勤務していない」と深刻な相談が増えています。

飯澤智美事務局長は「パワハラ・解雇などでの人権侵害が深刻化している。高齢者は年金だけでは暮らせず働くしかないが、コロナ禍が追い打ちをかけている」と語っています。

山形県2022年国民春闘共同学習決起集会 へ参加しましょう

3月5日（土）13:30～15:40
大手門パルズ3階ホール（山形市木の実町12-37）

<オンライン参加も可能です>

Zoom ID 99715201799 パスコード 860710

新型コロナで明らかになった医療崩壊
～22春闘に向け労働組合に期待されること～

講師 本田宏さん(NPO法人医療制度研究会副理事長 医師)